

カゴメが提供する健康サービス



矢賀部 隆史

カゴメ株式会社 健康事業部

2024年1月11日

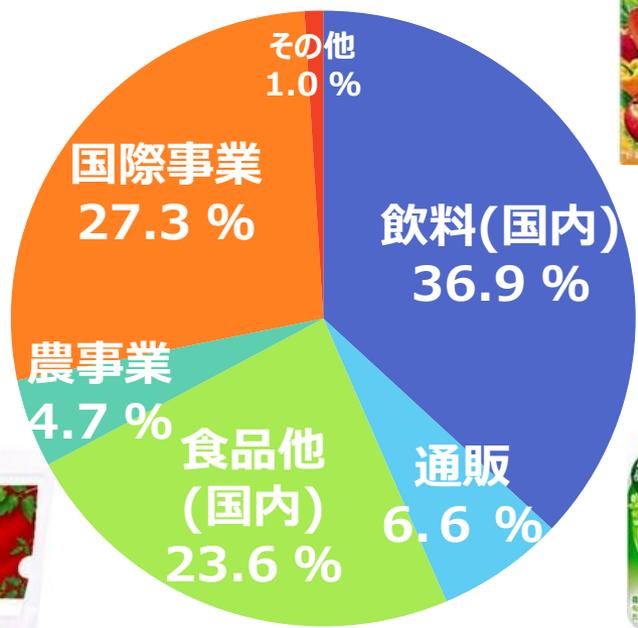
カゴメのご紹介



事業内容(売上構成比)

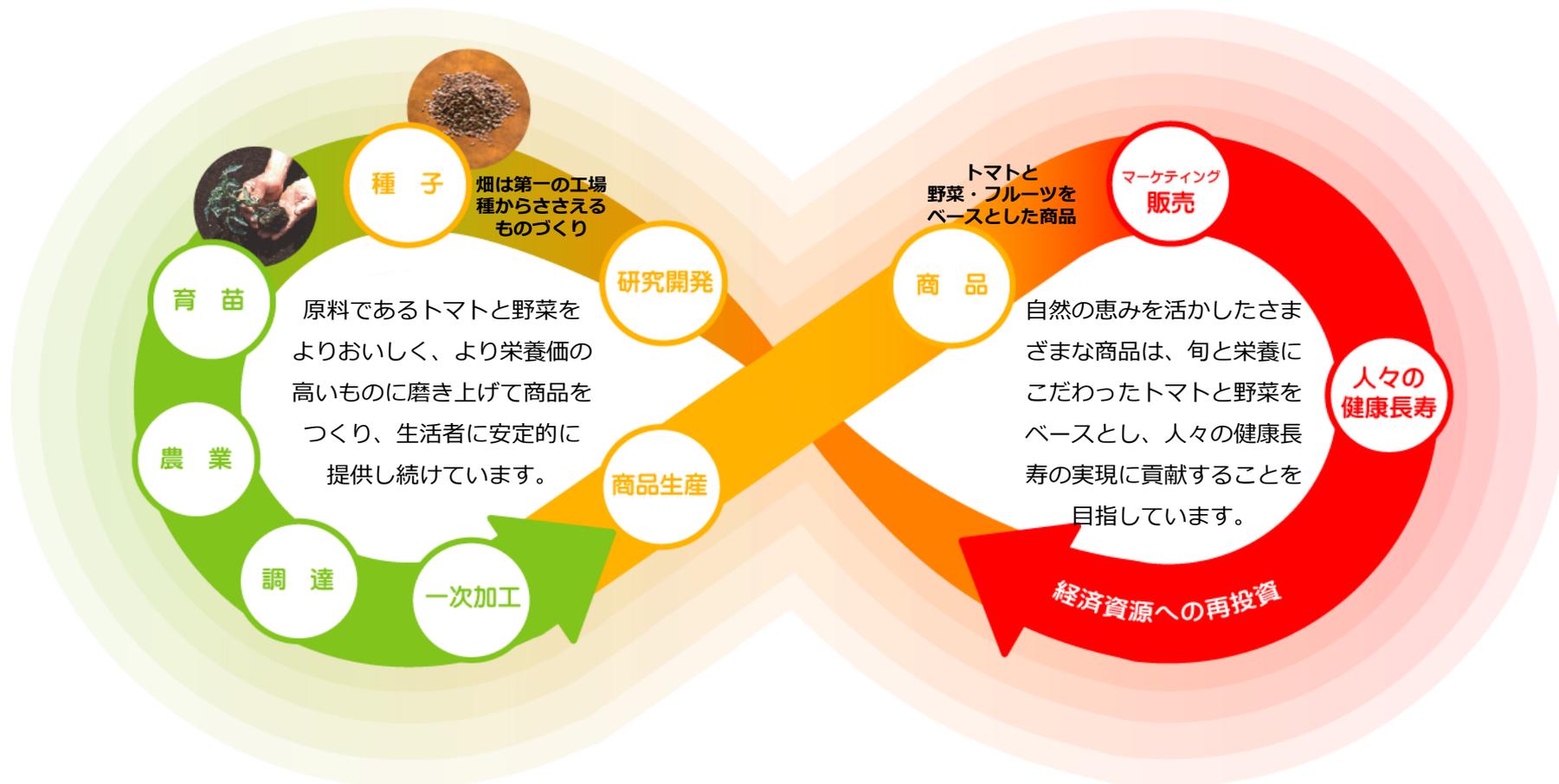
自然を、おいしく、楽しく。

KAGOME



※2022年度(1-12月)実績

農から手掛ける、世界でもユニークな企業



食を通じて**社会課題**の解決に取り組み、
持続的に成長できる強い企業になる

健康寿命の延伸



農業振興・地方創生



食料問題の解決



当社がこれまで培ってきたトマト・野菜、健康への知見を活かして、
さまざまな社会課題の解決に貢献し、企業としての持続的成長を
目指します。

「トマトの会社」から「野菜の会社」に



生鮮野菜からジュース・調味料、冷凍素材、サプリメントに至るまで幅広く、さまざまな素材・カテゴリー・温度帯・容器・容量で「野菜」を取り扱っている会社として、カゴメはユニークな存在。提供価値を磨き、「野菜の会社」を目指します。

日本の**緑黄色野菜**消費量の**18.5%**、**野菜消費量**の**4.9%**をカゴメが供給

* 淡色野菜 + 緑黄色野菜

日本国内の
野菜消費量

1,321万トン

日本国内の
緑黄色野菜消費量

333万トン

カゴメの 緑黄色野菜供給量

61.6万トン

カゴメの 野菜供給量

64.7万トン



出典：VEGE-DAS（カゴメ野菜供給量算出システム）
農林水産省「食料需給表」（令和3年度概算値）

社員から役員まで、 各職位の 女性比率を50%に

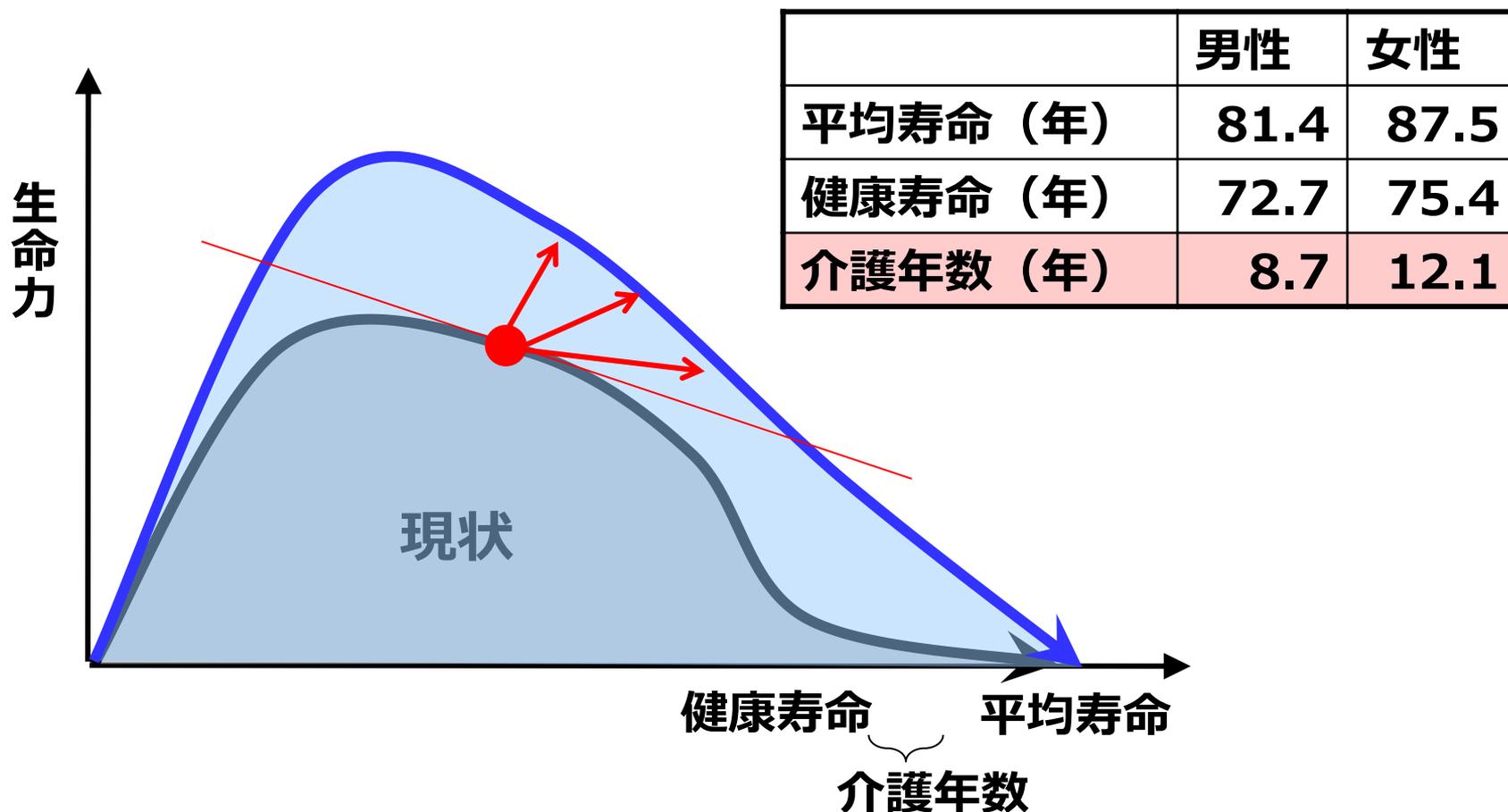


ダイバーシティを推進することで、
多様化する消費者ニーズに対応した事業活動を展開します。

健康寿命の延伸



健康寿命を平均寿命になるべく近づける = 健康長寿



厚生労働省 第16回健康日本21 (第二次) 推進専門委員会

野菜は「体の調子をととのえる」

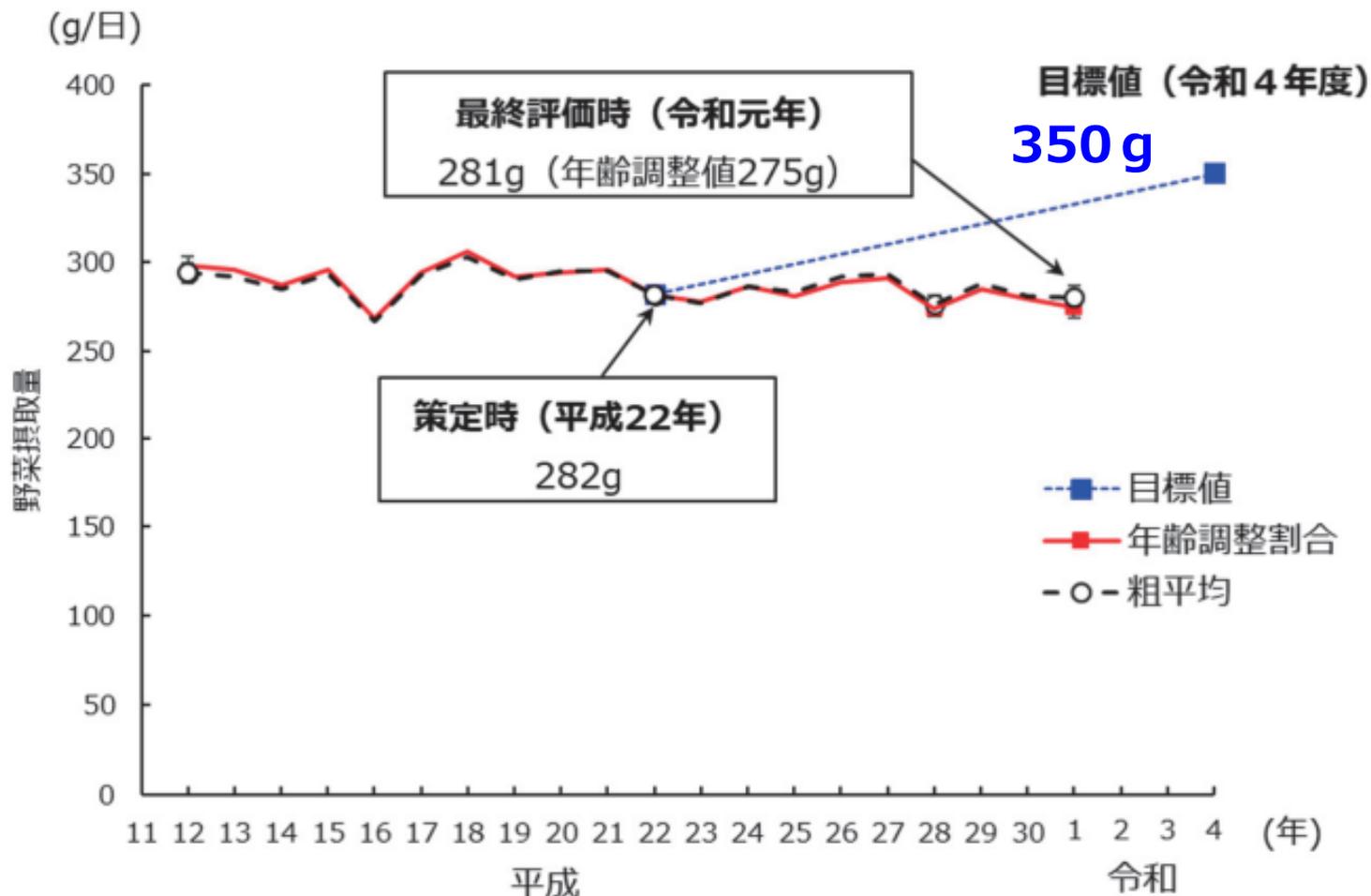
	ビタミン		ミネラル		食物繊維	
	A	C	カルシウム	鉄分	水溶性	不溶性
摂取品目 No.1	野菜類	野菜類	乳類	豆類	野菜類	野菜類
摂取品目 No.2	卵類	果実類	野菜類	野菜類	穀類	穀類

Vegetable : Vegetare 「活気づける」という意味から

野菜は緑の食品群 「体の調子をととのえる」

令和元年国民健康・栄養調査 「食品群別栄養素等摂取量」

野菜摂取量の平均値の推移（20歳以上）



出典：健康日本21（第二次）最終評価報告書
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_28410.html

健康寿命の延伸への貢献



日本の野菜不足の解消を目的に 「野菜をとろうキャンペーン」を展開中

- 『野菜をとろう あと60g』をスローガンに掲げて、異業種の企業・団体とも協働しながら、野菜摂取意欲を高める様々な施策を展開している。

※「厚生労働省 健康日本21」が推奨する1日の野菜摂取目標量は350g。 ※平成22年～令和元年国民健康・栄養調査（厚生労働省）での日本人の平均野菜摂取量は約290g。



「野菜をとろうキャンペーン」戦略発表会
(2020年1月・都内)



新聞広告での情報発信



野菜摂取量推定機
「ベジチェック®」を使った
野菜が足りているかどうかを
自覚して頂く活動

- 健康経営に積極的な企業や自治体などに向け、
健康サポートプログラムを販売。

健康セミナー



野菜摂取量 推定機器 「ベジチェック®」



チーム対抗！ ベジ選手権® 4週間チャレン



当社の管理栄養士による健康セミナー
オンライン・動画版も用意

小型センサーに手のひらを押し当て、
約30秒で推定野菜摂取量が分かる機器

野菜摂取量や野菜に関する
知識の習得を競い合うアプリ

カゴメ健康サービス 2017年～

健康に関心のある人も、そうでない人も、
楽しく続けられるよう、健康経営®(※)・
健康増進 をサポートいたします



*2023年11月末時点

※健康経営®はNPO法人健康経営研究会の登録商標です

カゴメ健康サポートプログラムの概要

野菜350g/日摂取を支援するサービスを通じ、
健康への行動変容を促す



動機付け

特徴 テーマに応じ、健康・食への意識・行動変容を目指します。
講師と参加者がコミュニケーションをとりながら参加できる仕掛けを組み込み、どなたでも楽しく参加可能です。



時間 60分程度（調整可）

講師 カゴメ「野菜と生活 管理栄養士ラボ[®]」所属管理栄養士

推奨人数 20名～100名 ※人数制限無し

テーマ 食生活改善、減塩、メタボケア、フレイル、女性 等



ご活用シーン 集合型研修や健康イベント、食育事業での啓蒙、健診結果説明会 等

備考 参加者が集合できる会議室、机、椅子、プロジェクター等の事前準備が必要です

集合型の他に、オンライン版、動画版のご用意もございます

実行支援

特徴 手のひらから野菜摂取量を推定する機器です。
推定野菜摂取量が見える化できるため、
食習慣改善の動機づけにご活用いただけます。

期間 1日、3日、7日、1カ月、3カ月、6カ月、1年～3年レンタル

ご活用シーン 健康イベント、健康推進スペースでの活用
各種セミナーでの動機づけとして活用
健診受診率向上施策として測定会開催 等

備考 室内環境・インターネット環境・電源が必要です
測定前にアルコールジェルなどで手を消毒いただくことを
推奨しています



「チーム対抗！ベジ選手権[®]4週間チャレンジ」

食生活の自己管理
モバイルアプリで楽しくサポート

チームメンバーが毎食の野菜摂取量(ベジハンド[®])を入力したり、野菜クイズに答えたりすることで獲得したポイントを**チームごとに合計して競い合う参加型の健康増進プログラム**です。

※ベジチェックを入力しない設定も可能です。



ベジハンド[®]とは？

1ベジハンド=片手1杯を野菜約60gとして数えます。
1日に6ベジハンド(約360g)の野菜摂取を目指しましょう。

※野菜飲料も野菜として数えてください。なお、野菜飲料(野菜100%)は200gで100gの野菜量として換算します。(食事バランスガイド参照)



生野菜サラダ



野菜炒め



おひたし



ミニトマト



野菜飲料



- 野菜飲料事業所お届け **環境サポート**
 - 貴社事業所まで、野菜飲料をお届け、従業員の方々の食生活改善をサポート
- 食リテラシー向上冊子 **実行支援**
 - リテラシーの向上をサポート
 - 野菜の役割から簡単レシピまで野菜まるごとBOOK (A5サイズ 見開き12ページ)
- ベジチェックレポートイングプラス **実行支援**
 - ベジチェックの使用前後でベジチェック値や従業員の意識と行動が変わったかをレポートイング
- 特定保健指導
 - 「野菜と生活 管理栄養士ラボ」による野菜摂取を軸とした食生活改善プログラム一人一人に寄り添い、実行可能な行動計画の立案と実行をサポート
- レシピ・コラム監修／専門家向け研修
 - 「野菜と生活 管理栄養士ラボ」が野菜レシピやエビデンスに基づいたコラムを監修
 - 専門家向け研修では、保健師・管理栄養士・栄養士などを対象に研修を実施、食に関する課題解決をサポート

カゴメ健康サービス



カゴメ健康サービスのご活用事例

<https://healthcare.kagome.co.jp/case>



今後の展開

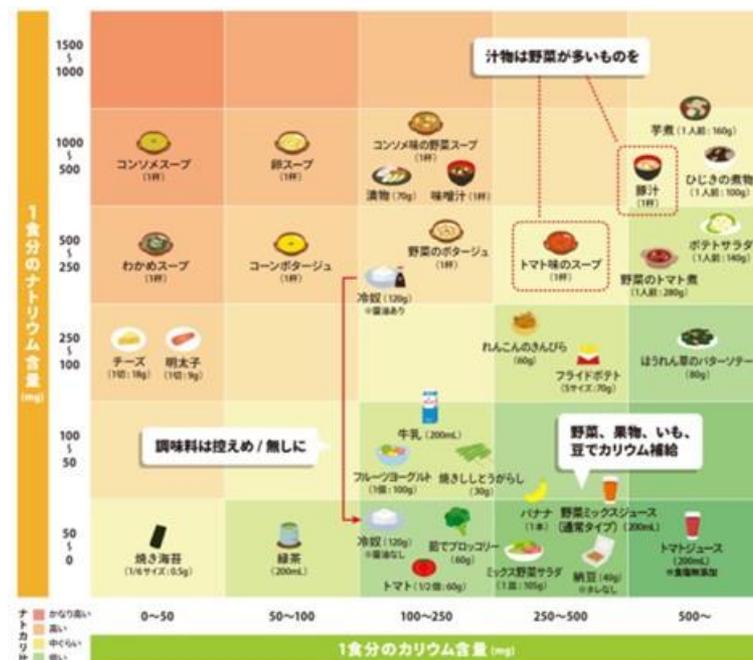


「ナトカリマップ®」

- 日本人の生活習慣病リスクを高める高血圧は、ナトリウム(塩分)のとりすぎと、野菜不足が要因といわれている。
- 野菜や果物に含まれるカリウムは、ナトリウムの体外への排出を促す働きがあり、ナトリウムとカリウムの摂取バランスの指標として、“ナトカリ比”という新しい考え方が注目されている。



ナトカリ比を下げるための食事のとり方をわかりやすく伝える「ナトカリマップ®」を東北大学と共同で開発



おかずと汁物の「ナトカリマップ®」

● 事業分野：医療・健康

－ 成人の食生活を改善して生活習慣病をはじめとした疾病を予防・改善するとともに、児童・生徒の食リテラシーを向上することで、健全な食生活を実践できる環境を充実し、健康長寿を延伸する。

- ・ 成人の食習慣について、野菜摂取量を推定できる「ベジチェック」による、野菜摂取の数値化、セミナーによる食リテラシー向上、楽しく継続できる野菜摂取量向上アプリ等により、行動変容理論に基づき改善する
- ・ 高血圧に起因する心血管疾患予防のため、食事によるナトリウム/カリウムのバランスの適正化を促す
- ・ 児童・生徒への野菜摂取を起点とした食育により、食リテラシーを高め、健全な食生活を実践できる環境を充実する

<https://www.kagome.co.jp/library/company/news/2023/img/2023100502.pdf>

● 事業分野：まちづくり

- 誰もが興味を持つ健康増進に有益な野菜を用いて、栽培、調理・摂食や摂取量向上プログラムによりコミュニティを活性化し、地域のブランドを向上する。
 - ・ 野菜の栽培等を通じて、こども世代、働く世代、高齢世代の世代間のつながりを形成する
 - ・ 栽培した野菜、地元野菜を活用した料理レシピ、調理スキル、賞味体験の共有や、知識の習得、野菜摂取量の競争等により、世帯間のつながりを形成し、同時に食生活を改善する
 - ・ 世代間と世帯間のつながりを拡大しながら、地域の健康づくりを牽引する人財の育成・活性化によりソーシャルキャピタルを充実させ、コミュニティを活性化する

ご清聴、ありがとうございました。